

◆ 巻頭言

“普通の人”が力をつけて輝ける時代、に生きる！

横井 千香子

「取締役就任おめでとう。横井さんは感性が優れている。EQを生かし周りの人の知恵を借りることです。頑張ってください」。この言葉は、私が取締役に就任したときにトップから贈られ、今現在の働き方のエネルギー源になった言葉です。そして、共に働く仲間を大事にしながら努力し続けることで生き生きと働き、チームや会社に、ひいては社会に貢献できることをこの言葉から教えていただきました。

“学校の成績と社会での成績はイコールではない”。取締役に就任した翌年、(株)クレディセゾン2007年度の広告コピーで、企業が求める人材像を鮮明にしたCI(コーポレート・アイデンティティ)です。学んだ知識に経験や情報を加えて知恵に変えることができる人材、価値創造に向かって努力し社会で生かせる人材、になってほしいということです。

最近の企業経営者や政治家など、多くのトップリーダーの履歴は多様です。実は真に優秀と言われる人は一握りで、社会はその外の普通の人で成り立っています。ですから、背中を押して熱意のある普通の人に経験を積む機会を与え、自分磨きができる人を輝かせ、働く喜びを感じるようにできる人が本物のリーダーだと、痛切に感じます。

グローバル化の中で経営者は、多様でたくましい人材を育成して、企業の存続をはかります。男女を問わず、覚悟と志をもって真摯に努力できる“普通の人”が力をつけて輝ける、そんな時代に生きているのです。多様な働き方が容認されている昨今でも、パートタイマーを幹部に抜擢して、未来に賭ける勇気をもったリーダーはそう多くはいませんが、特に女性がどのような雇用形態で働こうとも、本気で自立した働き方を望むならば、2020年までに女性の役職者30%も夢ではないのです。

古い概念にとらわれず、何のために、誰のために、行動するのか。未来創りのために、私たち一人ひとりが自立し、力をつけて輝く存在になること、働くこと、生きること、生き抜くことが大切、と思います。



PROFILE

横井 千香子
(よこい ちかこ)

(株)キュービタス顧問。
(株)クレディセゾン元取締役。大学卒業後、旅行会社に就職し結婚退職(1986年)。(株)西武クレジット(現クレディセゾン)にパートとして社会復帰し、立教大学大学院修了後、2006年取締役就任。日経ウーマンオブザイヤー2007総合10位。著書『摩優の樹』。